

JJAP 原稿作成要領

物理系学術誌刊行協会
JJAP 編集部

ここでは標準的な英文ワープロを対象としている。T_EX 原稿に関しては、クラスファイルに添付のサンプルファイルを参照のこと。

1 原稿の体裁

用紙 A4 版 (21 cm × 29 cm) の白紙

フォント Times New Roman あるいは Times-Roman

ページ設定 12 pt 以上, 行間: 1.5 行以上, 印字幅・余白は標準

順序 第 1 ページ (表題ページ) に, 表題 著者名 所属機関名 1 行余白 著者抄録 1 行余白 キー
ワード 改ページ 本文 謝辞 (Appendix) 改ページ 文献リスト 改ページ 図説明 改
ページ 表 改ページ 図

ページ番号 表題ページから図までを通して, ページ番号をつける。

2 刷り上がりページ数の算定方法

刷り上がりページ数は, 以下の換算ルールに従って, それぞれ行数に換算する。ページ制限のある Communication の場合は, 全体量を見積もる必要がある。

- 換算ルール

テキスト (本文と引用文献) 8.3 語を 1 行分と換算 L_1 (タイトルからキーワードまでの部分は含まない)

数式 式 1 行あたりテキスト 2 行と換算。ただし, 分数・総和記号・積分記号を含む場合は, 3 行と換算。 L_2

表 表の行数と横罫線の数の合計に余白分 2 行を加える。 L_3

図 図の高さを 4 mm で割って行数に換算し (端数繰上げ), 余白分 2 行を加える。 L_4

- Communication の制限ページ

$$3 \text{ 頁} \approx 326 \text{ 行} \geq L_1 + L_2 + L_3 + L_4$$

3 第 1 ページ (表題ページ)

表題 ● 省略形用語を用いない (例外については 11 「省略形用語」参照)。

- 冠詞・接続詞・前置詞を除く各単語の頭文字を大文字にする。ハイフンでつながれている場合も同様。

著者名

- 姓・名とも略さずに表記する。
- 複数の研究機関がある場合には、2 番目の機関に所属する著者から $1, 2, \dots, n$ と番号を右上に付する（研究機関と対応させる）。

研究機関名

- 学科名・学部名あるいは部課名をカンマで区切り、省略せずに表記する。
- 住所は都市・都道府県名と郵便番号のみで可（政令指定都市と県庁所在地は都市名と郵便番号のみ）。
- 複数の研究機関がある場合は、2 番目の機関から $1, 2, \dots, n$ と番号を左上に付する（著者と対応させる）。

著者抄録

- Regular Paper, Review Paper は 150 語程度。
- Communication は 100 語程度。
- 著者抄録では、図や表、文献などを引用しない。

キーワード

- 論文の主題を的確に表現し、全体の内容（素材・特性・手法）がよく推測できるような語句を 5～10 程度選ぶ。
- 著者抄録の 2 行下に “KEYWORDS:” と表示し、キーワードごとにカンマで区切る（ピリオドは不要）。
- 特に意味がある場合を除き、すべて小文字とする。

脚注

- 表題や著者の所属・連絡先などについて注釈が必要な場合は、脚注とする。脚注を示す記号は、*, †, ‡, §, ¶, ||, **, ††, ‡‡ の順に使用する。
- E-mail address は連絡著者に付する。
- 本文中では脚注を用いない。上記以外のコメント・注釈などは、本文末の引用リストに加える（4「本文」参照）。

4 本文

セクション表示

- 見出しにアラビア数字で番号をつける。
Section: **1. Section Title**
Subsection: *1.1 Subsection title*
Subsubsection: *1.1.1 Subsubsection title*
- セクションのタイトルは、冠詞・接続詞・前置詞を除く各語の頭文字を大文字にする。
- サブセクション以下のタイトルは、最初の語の頭文字のみ大文字にする。
- セクションのレベルは subsubsection までとする。
- Communication はセクションに分けない。

段落 5~6 字分下げして段落を開始する。

ピリオド 省略のピリオド (*et al.*, etc. など) と文末のピリオドが重なる場合, ピリオドは 1 つとする。

コメント・注釈 本文中に引用する場合は, 脚注にせず, 引用文献と同じ扱いとする (9「引用文献・コメント・注釈」参照)。

5 数式

- 可能な限り, ワープロの数式エディターを用いる。
- ギリシャ文字や記号は, Symbol フォントを用いる。
- 式の最後には原則としてピリオドかカンマをつける。
- 式には (1), (2) のような通し番号か, (1.1), (1.2), ... (2.1), (2.2) ... のようにセクションごとの通し番号を右余白につける。
- 長い式を途中で改行する場合には, 次行先頭に演算記号をつける。
- 括弧の順序は $\{[(\dots)]\}$ とする。
- ベクトルは \vec{Q} のようにせず, \mathbf{Q} あるいは \mathbf{Q} のようにする。

6 単位

6.1 単位記号の記法

- SI 単位記号を用いるのが望ましい。
- 立体文字で表す。
- ピリオドや複数の “s” をつけない。
- 単位記号 (s, V, Ω など) と単位の名称 (second, volt, ohm など) を混用しない。これらは複数の “s” を必要とする。
- Arbitrary unit は “arb. unit” とする (“a.u.” は atomic unit)。

6.2 単位記号の例

	SI 単位	併用・許容単位		SI 単位	SI 単位	併用・許容単位
長さ	m	Å	仕事率	W	光度	cd
質量	kg	t, u	電流	A	光束	lm
時間	s	min, h, d	電気量	C	照度	lx
角度	rad, sr	°, ', "	電圧	V	体積	(m ³) l または L
熱力学温度	K		電気容量	F	粘度	(Pa·s)
物質質量	mol		電気抵抗	Ω	有効断面積	(m ²) b
振動数	Hz		コンダクタンス	S	重力加速度	(m/s ²) Gal
力	N		磁場	(A/m)	放射能	Bq Ci
圧力	Pa	bar, atm, Torr	磁束	Wb	照射線量	(C/kg) R
エネルギー	J	eV	磁束密度	T	吸収線量	Gy rad
仕事・熱量	J	cal	インダクタンス	H	線量当量	Sv
			セルシウス温度	°C		

- cc, sc cm は, それぞれ cm^3 , cm^2 と表記する。
- μ , $m\mu$ は, それぞれ μm , nm と表記する。

6.3 単位の積と商

- 2つの単位の積は, 次のいずれかの記法で表す。
 $\text{m}\cdot\text{N}$ あるいは Nm
- 2つの単位の商は, 次のいずれかの記法で表す。
 $\text{m}\cdot\text{s}^{-1}$ あるいは m/s
- 不明確さを避けるため, 括弧を用いないときは, 斜線(/)の使用は1回に限り, また分母を2つ以上の単位の積で表さない。
 m/s^2 または $\text{m}\cdot\text{s}^{-2}$
 $\text{m}\cdot\text{kg}/(\text{s}^3\cdot\text{A})$ または $\text{m}\cdot\text{kg}\cdot\text{s}^{-3}\cdot\text{A}^{-1}$
 $\text{m}/(\text{V}\cdot\text{s})$ または $\text{m}\cdot\text{V}^{-1}\cdot\text{s}^{-1}$
(注) m/s/s , $\text{m}\cdot\text{kg/s}^3/\text{A}$, $\text{m}/\text{V}\cdot\text{s}$ のような書き方はしない。

7 Acknowledgment (謝辞)

- 謝辞を必要とする場合は, “Acknowledgment(s)” という見出しをつけることが望ましい。
- 助成金, 装置の借用, 試料の提供などはここに記す。
- 文科省あるいは学術振興会からの科研費についての記述例は, 以下の通り。
文科省 Grant-in-Aid for Scientific Research from the Ministry of Education, Culture, Sports,
Science and Technology
学振 Grant-in-Aid for Scientific Research from the Japan Society for the Promotion of Science

8 Appendix (付録)

- 付録が1つのときは “Appendix”, 2つ以上のときは “Appendix A”, “Appendix B” あるいは “Appendix: タイトル” のような見出しをつける。
- 数式には (A-1), (A-2), (B-1), (B-2) のように番号をつける。
- 図には Fig. A-1, Fig. A-2, Fig. B-1, Fig. B-2 のように番号をつける。
- 表には Table A-I, Table A-II, Table B-I, Table B-II のように番号をつける。

9 引用文献・コメント・注釈

9.1 本文中での引用

- 引用する文献・コメント・注釈などは, すべてまとめて別紙にリストし, 通し番号を振る。
- 本文中での脚注は使用しない。
- 本文中には, 1), 2,3), 4-7,11) のように, 引用番号をピリオドやカンマの後ろに上付で表記する。

- 本文中に文献を人名だけで引用する場合は、原則として姓だけを書く。著者が2名までのときは必ず2名とも姓を挙げ、3名以上のときは第1著者だけを記して“*et al.*”とする。

The phenomenon of spiking in solid state lasers is very well known.¹⁻³⁾ It was first reported in the very early paper of Collins *et al.*^{2,5)}

9.2 引用文献の書き方

- 1つの引用番号には1つの文献を対応させる。同一著者の文献（Errataを除く）についても別番号にする。
- 同じ雑誌、単行本などの巻・年・ページが異なる文献を引用する場合でも、*ibid.*を使わない。
- 引用リストでは*et al.*を使わず、全著者を列記する。ただし、ソフトウェアに関してはその限りではない。

A 雑誌

- 1) T. Hashimoto, K. Fujito, K. Samonji, J. S. Speck, and S. Nakamura: Jpn. J. Appl. Phys. **44** (2005) 869.
- 2) R. H. Bruce: Solid State Technol. **48** (2005) No. 1, 5.
- 3) G. Asano, T. Oikawa, H. Funakubo, and K. Saito: Jpn. J. Appl. Phys. **42** (2003) L1083 [Errata; **42** (2003) L1346].

- 著者は全員リストする。
- 雑誌名の略し方はISOに従う（15「雑誌名の省略例」を参照）。
- 記載順は、著者名 コロン（:） 雑誌名 巻（ポールド） 年（括弧でくる） 開始ページ。
- ページに“p.”は不要。
- 毎号ページが改まる雑誌には、ページの前に号数を入れる。
- Errataに限り、同一引用番号に記載する。

B 英語以外の雑誌

- 3) H. Sakurai, K. Takada, and E. Takayama-Muromachi: Oyo Buturi **74** (2005) 22 [in Japanese].
- 4) Ju. V. Tsekhmistrenko: Zh. Exsp. Teor. Fiz. **26** (1959) 1546 [Translation: Sov. Phys. JETP **9** (1959) 1097].

- 雑誌名をローマ字で記し、最後に [in Japanese], [in Russian] のように使用言語を表記する。
- 英訳だけを見ている時は、原文献（ローマ字表記）とその英訳の両方を併記する。

C 単行本

- 5) S. M. Sze: *Physics of Semiconductor Devices* (Wiley, New York, 1981) 2nd ed., p. 55.
- 6) D. Edwards: in *Handbook of Optical Constants of Solids*, ed. E. Palik (Academic Press, New York, 1985) p. 547.
- 7) N. M. Amer and W. B. Jackson: in *Semiconductors and Semimetals*, ed. A. C. Beer (Academic Press, Orlando, 1984) Vol. 21, Part B, Chap. 3, p. 85.

- 記載順は，著者名 コロン（：） タイトル（イタリック） （出版社，出版地，発行年） 章あるいはページ。
- タイトルは省略しない。
- 出版社は Springer や Wiley のように最小限でも可。
- 出版地は基本的に 1 つの都市名とする。米国の場合は NJ などの州コード併記も可。
- 基本的に章などの開始ページを表記する（複数ページの場合は“pp.”をつける）。
- 著者と編者の両方が記載されている時は，タイトルの前に“in”をつける。
- シリーズ物の場合は，シリーズのタイトルを記載する。

D 英語以外の単行本

- 8) T. Takenouchi: *Handotai* (Semiconductor) (Shokabo, Tokyo, 1964) p. 83 [in Japanese].

- タイトルをローマ字で記し，その後に英訳名を括弧に入れる。
- 使用言語を，[in Japanese] のように記す。
- 英訳を文献として引用する場合には，英訳名のみを示す。

E Proceedings や予稿集

- 9) A. Narazaki, J. Maruyama, T. Kayumi, H. Hamachi, J. Moritani, and S. Hine: Proc. Int. Symp. Power Semiconductor Devices and ICs, 2000, p. 377.
- 10) M. Koyama, A. Kaneko, T. Ino, M. Koike, and Y. Kamata: IEDM Tech. Dig., 2002, p. 849.
- 11) K. Kita, Y. Yamamoto, K. Kyuno, and A. Toriumi: Ext. Abstr. (52nd Spring Meet., 2005); Japan Society of Applied Physics and Related Societies, 30p-ZB-7 [in Japanese].
- 12) M. S. Joo, B. J. Cho, D. Z. Chi, N. Balasubramanian, and D.-L. Kwong: Ext. Abstr. Solid State Devices and Materials, 2004, p. 202.
- 13) T. Wada, T. Negami, and M. Nishitani: Proc. 9th Int. Conf. Ternary and Multinary Compounds, Yokohama, 1993, Jpn. J. Appl. Phys. **32** (1993) Suppl. 32-3, p. 41.

- 出版社から発行されている proceedings などは，単行本に準ずる。
- 会議名はイタリックにしない。
- “Proceedings” や “Symposium”，“International” は略記する。その他は略記しない。
- 雑誌の Supplement として発行されている場合は，雑誌名も記す。その場合，会議名をイタリックにする。
- Proc. SPIE など，一部はジャーナル扱いとする。

F 学会講演

14) K. K. Bhuwarka, M. Born, S. Sedlmaier, J. Schulze, and I. Eisele: presented at ULIS6, 6th Int. Conf. Ultimate Integration of Silicon, 2005.

- 会議名の前に “presented at” と記す。

G テクニカルレポート

15) B. W. Braams: Natl. Bur. Stand. Tech. Note 724 (1972).

16) K. Hoh and Y. Yasuda: IEICE Tech. Rep. ED93-89 (1993) [in Japanese].

H 特許

17) Y. Takahashi and M. Nawa: Japan Patent 652696 (1971).

18) A. C. Smith: U.S. Patent 3390940 (1988).

I 未発表論文

19) N. Kunitomi and M. Kaneko: private communication.

20) M. Saito: in preparation for publication.

J 投稿中で掲載未定の論文

21) A. Tonegawa and S. Hasegawa: submitted to Jpn. J. Appl. Phys.

K 投稿中で掲載決定の論文

22) S. Nakamura and J. S. Speck: to be published in Jpn. J. Appl. Phys.

L 学位論文

23) K. Aoki: Dr. Thesis, Faculty of Science, University of Tokyo, Tokyo, 1988.

10 本文中に式や図・表を引用する場合の書き方

	Section	数式	文献	表	図
文頭	Section 1	Equation (1)	Reference 1	Table I	Figure 1
文中	§1	eq. (1)	ref. 1	Table I	Fig. 1, Figs. 2(a) and 2(b)
	§2 and §3	eqs. (2) and (3)	refs. 2 and 3	Tables II and III	Figs. 3–6

11 省略形用語

- 下記の省略形用語は説明なしで使用できる。
- これら以外の省略形用語は、本文・アブストラクトの初出時に必ずスペルアウトし、その直後に省略語を括弧に入れる。

ac (AC)	alternating current	ESR	electron spin resonance
dc (DC)	direct current	IR	infrared
bcc	body-centered cubic	UV	ultraviolet
fcc	face-centered cubic	FM	frequency modulation
hcp	hexagonal close-packed	AM	amplitude modulation
cw	continuous wave	rf (RF)	radio frequency
emf	electromotive force	IC	integrated circuit
rms	root-mean-square	LSI	large scale integration (or large scale integrated circuit)
NMR	nuclear magnetic resonance	DNA	deoxyribonucleic acid

12 表

- 用紙
- 本文に準ずる。
 - 1表ずつ別紙に印字する。
 - 図説明ページの後ろにつける。

表番号

- Table I, Table II のようにローマ数字で通し番号をつける。

- ローマ数字は普通のアルファベットを使う。

表説明

- 表の上に印字する（図説明のように別紙にしない）
- 大文字ではじめ、ピリオドで終わる。

見出し項目 表中の見出し項目は、最初の単語だけ大文字ではじめる。

Table I. Fermi energy and carrier concentration for each sample.

Sample number	Substrate temperature (°C)	Fermi level η_F (eV)	Carrier concentration n (10^{20} cm^{-3})
560-2	520	0.270	5.67
⋮	⋮	⋮	⋮

13 図

図は完成図（補筆しないでそのまま使えるもの）とする。

13.1 一般的注意

- 用紙
- 本文に準ずる。
 - 1図ずつ別紙にする。

図番号

- 図と写真を区別せず、Fig. 1, Fig. 2 と通し番号をつける。
- 1つの図が2図以上に分かれている時は、(a), (b), (c) のように枝番号をつける。

図説明

- 別紙にリストする。
- 2図以上に分かれている場合も、図説明は1つとし、必要に応じて (a), (b) などの説明を記す。
- 引用リストの次ページにつける。

カラー印刷

- カラー印刷を希望する場合は、余白に「カラー印刷希望」と明示する。
- その場合、別途実費が必要となる。

13.2 製図上の注意

- 文字
- Times New Roman (Times-Roman) や Arial (Helvetica) など一般的な欧文フォントを使用する。
 - 縮小することをあらかじめ考慮して、バランスよいサイズにする。

単位記号

- 標準的な単位を用いる（6「単位」参照）。

- 座標軸の説明の後に括弧で囲むか，スラッシュの後に記す。
- \emptyset や $1.5E16$ のような表示は，可能なら 0 ， 1.5×10^{16} のように直す。

14 図の電子ファイルについて

14.1 推奨フォーマット

EPS 特に線画の場合。ただし，変換ソフトによる EPS ファイルは不可。

WMF 特に線画の場合。大部分の Windows 用アプリケーションで保存が可能。

PDF 画像のダウンサンプルや圧縮を行わない。

TIFF 写真のみの場合に限る。解像度は 300 dpi 以上。線画は不可。

JPEG TIFF に準ずる。

14.2 アプリケーションファイル

以下の Microsoft 社のアプリケーションに限り，上記フォーマットではなくオリジナルファイルを受け付ける。

PowerPoint 複数の図がある場合，1 図を 1 スライド扱いとして，1 つの ppt ファイルにまとめる。

Word 複数の図がある場合，1 図を 1 ページに置いて，1 つの doc ファイルにまとめる。

Excel 1 図 1 ファイルとする。Excel の場合，プリンターでの印刷結果と画面での表示が異なる場合がある。その場合は画面での表示を優先する。

14.3 電子ファイル作成上の注意

図の大きさ 刷り上がりサイズで作成し，投稿時には整数倍に拡大する。

フォント

- Times New Roman (Times-Roman) や Arial (Helvetica) など一般的な欧文フォントを使用する。
- 和文フォントは使用しない。
- ギリシャ文字や $^\circ$ などの記号は，Symbol フォントを使用する。

線幅 刷り上がりサイズにおいて，0.25 ポイント以上にする。

その他 著者がスキャンした図は受け付けない。

15 雑誌の省略例

Acc. Chem. Res.

Acta Crystallogr.

Acta Crystallogr., Sect. A

Acta Metall.

Acta Phys.

Acta Phys. Pol.

Acoust. Sci. Technol.

Acoustica

Adv. Appl. Mech.

Adv. At. Mol. Opt. Phys.

Adv. Chem. Phys.

Adv. Mater.

- Adv. Phys.
 Adv. Quantum Chem.
 AIAA J.
 AIChE J.
 AIP Conf. Proc.
 Akust. Zh.
 Am. J. Phys.
 Anal. Chem.
 Angew. Chem., Int. Ed.
 Ann. Chim. Phys.
 Ann. Geophys.
 Ann. Fluid Dyn.
 Ann. Math.
 Ann. Phys. (Leipzig)
 Ann. Phys. (N.Y.)
 Ann. Phys. (Paris)
 Annu. Rev. Nucl. Sci.
 Appl. Opt.
 Appl. Phys. A
 Appl. Phys. Express
 Appl. Phys. Lett.
 Appl. Spectrosc.
 Appl. Supercond.
 Appl. Surf. Phys.
 Appl. Surf. Sci.
 Astron. J.
 Astrophys. J.
 At. Anerg.
 Aust. J. Phys.
 Bell Syst. Tech. J.
 Ber. Bunsen-Ges. Phys. Chem.
 Biochemistry
 Biometrika
 Br. J. Appl. Phys.
 Bull. Am. Phys. Soc.
 Bull. Chem. Soc. Jpn.
 Butsuri
 C. R. Acad. Sci.
 C. R. Acad. Sci., Ser. A
 Can. J. Phys.
 Chem. Lett.
 Chem. Phys.
 Chem. Phys. Lett.
 Chem. Rev.
 Commun. Math. Phys.
 Commun. Pure Appl. Phys.
 Comput. Phys.
 Cryogenics
 Curr. Appl. Phys.
 Czech. J. Phys.
 Diamond Relat. Mater.
 Discuss. Faraday Soc.
 Dokl. Akad. Nauk SSSR
 Electron. Lett.
 Europhys. Lett.
 Ferroelectrics
 Eur. Phys. J. A
 Fiz. Tverd. Tela
 Fortschr. Phys.
 Geochim. Cosmochim. Acta
 Geophys. Res. Lett.
 Helv. Chim. Acta
 Helv. Phys. Acta
 Hyperfine Interactions
 IBM J. Res. Dev.
 IEE Proc.—Optoelectron.
 IEE Proc.—Sci. Meas. Technol.
 IEEE Electron Device Lett.
 IEEE J. Quantum Electron.
 IEEE J. Sel. Top. Quantum Electron.
 IEEE J. Solid-State Circuits
 IEEE Photonics Technol. Lett.
 IEEE Trans. Antennas Propag.
 IEEE Trans. Electron Devices
 IEEE Trans. Inf. Theory
 IEEE Trans. Instrum. Meas.
 IEEE Trans. Magn.
 IEEE Trans. Microwave Theory Tech.
 IEEE Trans. Nucl. Sci.
 IEEE Trans. Plasma. Sci.
 IEEE Trans. Sonics Ultrason.
 IEEE Trans. Ultrason. Ferroelectr. Freq. Control
 IEICE Trans. Electron.
 Infrared Phys.
 Inorg. Chem.
 Int. J. Mass Spectrom. Ion Phys.
 Int. J. Mod. Phys. A
 Int. J. Quantum Chem.
 Integrated Ferroelectr.
 Izv. Akad. Nauk SSSR, Ser. Fiz.
 J. Acoust. Soc. Am.
 J. Alloys Compd.
 J. Am. Ceram. Soc.
 J. Am. Chem. Soc.
 J. Appl. Crystallogr.
 J. Appl. Phys.
 J. Br. Nucl. Energy Soc.
 J. Catal.
 J. Chem. Phys.
 J. Chem. Soc.
 J. Chim. Phys. Phys.-Chim. Biol.
 J. Cryst. Growth
 J. Electrochem. Soc.
 J. Electron. Mater.
 J. Electron Spectrosc. Relat. Phenom.
 J. Fluid Mech.
 J. Korean Phys. Soc.
 J. Less-Common Met.
 J. Lightwave Technol.
 J. Low Temp. Phys.
 J. Lumin.
 J. Magn. Magn. Mater.
 J. Mater. Sci.
 J. Mater. Res.
 J. Math. Phys.
 J. Mol. Spectrosc.
 J. Non-Cryst. Solids
 J. Nucl. Energy
 J. Nucl. Energy, Part A
 J. Nucl. Mater.
 J. Nucl. Sci. Technol.
 J. Opt. Soc. Am. A
 J. Phys. A
 J. Phys. (Paris)
 J. Phys. I
 J. Phys. Chem.
 J. Phys. Chem. Solids
 J. Phys.: Condens. Matter
 J. Phys. Soc. Jpn.
 J. Plasma Phys.
 J. Polym. Sci.
 J. Polym. Sci., Polym. Lett. Ed.
 J. Polym. Sci., Polym. Phys. Ed.
 J. Polym. Sci., Part A
 J. Quant. Spectrosc. Radiat. Transfer
 J. Res. Natl. Bur. Stand.
 J. Res. Natl. Bur. Stand., Sect. A
 J. Rheol.
 J. Sound Vib.
 J. Stat. Phys.
 J. Vac. Sci. Technol.
 J. Vac. Sci. Technol. A

JETP Lett.	Philips Res. Rep.	Science
Jpn. J. Appl. Phys.	Philos. Mag.	Sens. Actuators
K. Dan. Vidensk. Vidensk. Selsk.	Philos. Mag. A	Sens. Actuators A
Mat.-Fys. Medd.	Philos. Trans. R. Soc. London, Ser. A	SID Int. Symp. Dig. Tech. Pap.
Kotai Butsuri	Phys. Chem.	Sol. Energy Mater.
Kristallografia	Phys. Fluids	Sol. Energy Mater. Sol. Cells
Langmuir	Phys. Lett.	Solid State Commun.
Mater. Res. Bull.	Phys. Lett. A	Solid-State Electron.
Mater. Res. Soc. Symp. Proc.	Phys. Met. Metall.	Solid State Ionics
Mater. Trans.	Phys. Rev.	Solid State Phys.
Mol. Cryst. Liq. Cryst.	Phys. Rev. A	Solid State Technol.
Mol. Phys.	Phys. Rev. Lett.	Sov. Phys. Acoust.
Nano Lett.	Phys. Scr.	Sov. Phys. Crystallogr.
Nanotechnology	Phys. Semicond.	Sov. Phys. Dokl.
Nature	Phys. Status Solidi	Sov. Phys. JETP
Nat. Mater.	Phys. Status Solidi A	Sov. Phys. Semicond.
Nat. Phys.	Phys. Today	Sov. Phys. Solid State
New J. Phys.	Physica	Sov. Phys. Usp.
Nonlinearity	Physica A	Supercond. Sci. Technol.
Nucl. Eng. Des.	Physics (N.Y.)	Superlattices Microstruct.
Nucl. Fusion	Plasma Phys.	Surf. Sci.
Nucl. Instrum. Methods	Polym. J.	Synth. Met.
Nucl. Instrum. Methods Phys. Res., Sect. A	Proc. IEE	Trans. Faraday Soc.
Nucl. Phys.	Proc. IEEE	Trans. Metall. Soc. AIME
Nucl. Phys. A	Proc. IRE	Thin Solid Films
Nuovo Cimento	Proc. Natl. Acad. Sci. U.S.A.	Usp. Fiz. Nauk
Nuovo Cimento A	Proc. Phys. Soc., Sect. A	Vacuum
Opt. Acta	Proc. Phys. Soc. London	Z. Angew. Math. Phys.
Opt. Commun.	Proc. R. Soc. London	Z. Angew. Phys.
Opt. Eng.	Proc. R. Soc. London, Ser. A	Z. Kristallogr.
Opt. Express	Proc. SPIE	Z. Naturforsch.
Opt. Lett.	Prog. Theor. Phys.	Z. Naturforsch. A
Opt. Rev.	Radiat. Eff.	Z. Phys. A
Opt. Spectrosc.	Rev. Mod. Phys.	Z. Phys. Chem. (Leipzig)
Optik	Rev. Sci. Instrum.	Zh. Eksp. Teor. Fiz.
Oyo Buturi	Sci. Am.	Zh. Tekh. Fiz.

問い合わせ先

物理系学術誌刊行協会 JJAP 編集部

〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-22 ダヴィンチ湯島 5 階

電話 03-5844-3291 FAX 03-5844-3290

電子メール jjap_edit@ipap.jp ホームページ <http://jjap.ipap.jp>